

輝く母校 七十年

日本大学
豊山

日本大学豊山高等学校・中学校
創設70周年記念誌

卷頭言

「大らかさ」と「多様性を育む教育」

本校の前身は真言宗豊山派が明治36年に創建した旧制「豊山中学校」です。昭和29年には運営が学校法人「日本大学」に移行され、以来、日本大学の正付属校のひとつとして現在に至っています。旧制豊山中学校の創立から今年で121年、日本大学直属の付属校としては創設70周年という節目の年を迎えます。

本校を紹介する上で大きな柱となるもののひとつに、「強く 正しく 大らかに」の校訓のもと展開される男子校としての教育があります。

「男子校」というと「力強さ」や「逞しさ」、場合によっては「荒々しさ」などをイメージされる方も多いと思います。しかし本校が掲げる「男子校教育」は、「男子はかくあるべき」といった固定概念に捉われるものでは決してありません。その一つとしてあげられるのが「多様性を認め合う精神の育成」です。男子校だからこそ、男子校でしか成しえない「多様性を育む教育」を展開することです。

本校は通学範囲も広いことから、多くの地域から様々な生徒が集まっています。その中には世界レベ



日本大学豊山高等学校・中学校 校長

松 井 靖

ルで活躍する運動選手もいれば、運動とは全く無縁で、鉄道や模型、音楽や芸術などの文化活動に没頭する生徒もいます。趣味も特技も将来の目標も全く違う生徒たちが同じ学び舎でお互いを認め合い、共存していく。そして卒業後、全く違った人生を歩む中でも一生の友として交流を続けていく。自分のやりたいことを気兼ねなく、思いっきりできる環境の中で、お互いの多様性を認めることができる学校。それが日大豊山なのです。

本校の卒業生が様々な分野で活躍しているという事実は、まさに本校の校訓の一つ、「大らかさ」にもある「多様性を育む教育」の賜物だと確信している次第です。

これからも本校は護国寺の深い緑に抱かれながら、ますます飛躍してまいります。これまで本校の発展にご尽力いただき、支えていただいた皆様に深く感謝申し上げますとともに、引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、巻頭の言葉とさせていただきます。



目 次

巻頭言「大らかさ」と「多様性を育む教育」	日本大学豊山高等学校・中学校 校長	松井 靖	1
祝 辞	日本大学 理事長	林 真理子	4
	日本大学 学長	大貫進一郎	5
挨 拶「We are 日大豊山」	高等学校教頭	梅田 高司	6
「今までとこれから」	中学校教頭	原田 学	6
「伝統校に着任して」	事務長	植草 敦	7
「学校創設 70 周年によせて」	経理長	宇田川 理	7
「創設 70 周年を祝して」	育友会名誉会長	中 義之	8
「70 周年ご挨拶」	育友会会長	溝上 好美	8
「創設 70 周年によせて」	同窓会会長	井上 敦雄	9
「日本大学豊山学園 70 周年を祝す」	同窓会理事長	石田 勝之	9
「大らかな多様性」	高等学校生徒会会長	清水裕太郎	10
「70 周年おめでとうございます」	中学校生徒会会長	嶋田 大朗	10
日本大学豊山学園校歌・旧制豊山中學校々歌			11
日本大学豊山高等学校・中学校校訓・教育方針・校旗・校章			12
日本大学の目的および使命・日本大学教育憲章			13

日本大学学祖 山田顕義	14
日本大学歴代理事長・学長	16
旧制豊山中学校歴代校長 / 日大豊山高等学校・中学校歴代校長	17
日大豊山のルーツ・前身から現在へ	18
略年表<宗学林～旧制豊山中学校>	20
<旧制豊山中学校～日本大学豊山高等学校・中学校>	22
<日本大学豊山高等学校・中学校>	24
校舎の移り変わり	28
制服の移り変わり	30
中高大の連携教育 / 高校入学生の高大連携教育 / コース紹介	32
卒業生の進路	34
校務組織	35
日大豊山の1年間	36
クラブ・生徒会活動等の主な活躍	38
70周年のクラブ紹介<体育部>	43
<学芸部>	54
編集後記	64



理事長祝辞



日本大学 理事長

林 真理子

1954（昭和29）年に、旧制豊山中学校を継承し、日本大学豊山高等学校・中学校が発足してから、本年で70周年を迎えました。誠におめでとうございます。この間、多くの苦難を乗り越え、今日の日大豊山に発展させた、歴代の校長、教職員の方々をはじめ関係者各位のご努力・ご尽力に対して、深く敬意を表します。

日本大学豊山高等学校・中学校は、数ある付属高等学校・中学校の中で唯一の男子校で、本学の教育理念である「自主創造」の精神と豊山学園の校訓「強く 正しく 大らかに」を教育方針として、中高一貫の教育が行われています。

都心の中にあっても、学祖山田顕義先生の墓所がある、護国寺の自然豊かな森に隣接し、2015（平成27）年に建てられた高層の校舎には、充実した施設と設備が整っています。このような恵まれた教育環境のもとで、コース制による生徒の希望と学力、個性に応じたきめ細やかな教育が行われ、多くの優れた生徒を日本大学に送つていただいております。

また、最近の日本大学豊山高等学校・中学校の注目すべき取り組みとして、調理器の施設が備わった家庭科室を設けるなど、男子校だからこそその利点を生かし、男女の画一的な価値観にとらわれないダイバーシティとジェンダーフリーの教育を実践されています。これは従来の男子校とは違う先駆的な試みであり、日大豊山の人気を高めている点でもあると思います。

さて、現在日本大学は不祥事に対する改善・改革にさらに取り組むとともに、未来を見据えた諸施策を全力で進めております。皆様方のご理解とご協力・ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

最後に、日本大学豊山高等学校・中学校のさらなる発展を心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

学長祝辞



日本大学 学長

大貫 進一郎

日本大学豊山高等学校・中学校創設 70 周年、誠におめでとうございます。日本大学の教学部門を代表いたしまして、心よりお祝いを申し上げます。また、この間、時代の変化に対応しながら、校訓である「強く 正しく 大らかに」を体現する心身ともに豊かな人材を育成し、今日の発展を築かれました歴代の校長や教職員、関係者の皆様方のご努力に対して、深く敬意を表します。

日本大学豊山高等学校・中学校は、今年度（令和 6 年度）も 400 名をこえる卒業生を本学にお預けくださっております。私の教え子にも多くの出身者がおり、正課の学びはもとより、研究室の運営、部やサークルでの活動、「ものづくり」や「ことづくり」の諸活動等においてグループの要となっている姿を多くみてまいりました。これは、教育方針のうち、特に 2 つ目にある「知識技能を啓発し ことにあたって協力をおしまないこと」という精神が、卒業生に広く根づいている証だと強く感じております。

私は、学長就任以来、「H 型人材」の育成を掲げてまいりました。COVID-19 の感染拡大により、一時は学校教育においてもコミュニケーションの機会が急激に減少しましたが、Society 5.0 に向かうポスト・コロナの社会にあっては、人と人とを繋ぎ、高度な知見とともに専門分野間の橋渡しをしながらイノベーションを起こせる人材が求められております。その意味で、日本大学豊山高等学校・中学校での学びと経験を胸に本学等でさらに研鑽を深め、社会へと巣立つ卒業生は、校歌の詞にありますように、「朽つるなき真理」とともに「大いなる未来」「新しき世界」を拓く力を有する「日本の希望」であると信じております。そして、そうした人材を、この先も 100 年、200 年と社会に輩出されることを、私は大いに期待しております。

日本大学は、認定こども園から大学院までを有する総合教育機関として、これまで以上に付属校目線の接続教育を展開すべく、新しい教学施策を推し進めております。より強固な連携関係の下に、日本大学豊山高等学校・中学校が教育機関としてさらに大きな存在感を示されることを祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。

We are 日大豊山



日本大学豊山高等学校 教頭

梅田 高司

私たちの豊山学園は日本大学の付属校として七十周年を迎えました。記念すべき年に立ち会えることとなり、豊山とのつながりの深さを改めて感じます。

本校が創設以来大切にしてきたことの一つは「挨拶」です。挨拶ができる人は多くの方から愛され、挨拶は社会生活を営む上でも必要不可欠です。昭和の香りを残した厳しい豊山での生活指導によって、卒業時には大きな声で礼儀正しい挨拶ができるようになります。

また、共学化が進む中で、日本大学付属唯一の男子校である豊山生の強みは、自分の好きなことに全身全霊を傾けられることです。脈々と受け継がれてきた豊山での学びが礎となり、輝かしい未来へとつながっています。大学教授・企業役員・オリンピアンなど多方面で活躍する卒業生がそれを物語っています。

創設以来受け継がれて来た伝統を未来の豊山生へつないでいけるよう「We are 日大豊山」を心に刻み、これからも母校と共に歩んでゆきたいと思います。

今までとこれから



日本大学豊山中学校 教頭

原田 学

昭和 29 年 8 月に学校法人日本大学が設置する学校に移行してから創設 70 周年を迎えることになり、この節目に立ち会えたことに喜びを感じております。

学習指導要領は現在 8 回目の改訂にあたり、ようやく「創造性」の育成が前面に出てきました。しかしながら、学習指導要領の歴史を見ますと、日本の教育は「ゆとり教育」と「詰め込み教育」を行ったり来たりしていることがわかります。そのような中にあって、本校は「強く 正しく 大らかに」という校訓のもと、男子校という特色を生かし、一貫して文武両道を目指し、各界において貢献する数多くの同窓生を輩出しています。

本学はいかなる時も時代を認識して未来を見据え、日本大学の建学の精神に基づき、最良の教育を実践し、社会に貢献できる人材の育成に努めてまいります。

伝統校に着任して

豊山高等学校・中学校が創設 70 周年を迎えたことを心よりお喜び申し上げます。これもひとえに皆様の温かいご支援の賜物と衷心より感謝いたしております。

この栄ある 70 年の歴史と伝統に裏打ちされた本校には令和 6 年 7 月に着任しました。初めて本校を訪れた際、見ず知らずの私に生徒から透き通った声で「こんにちは」と挨拶され、とても新鮮な感銘を受けました。これが長い歴史の中で培ってきた伝統校の良さだと確信しております。

一方、創設 60 周年からの 10 年間は IT 機器やネットワークなどの技術革新によって、私たちを取り巻く生活環境は目覚ましく変化しました。私などの高齢者には厳しい時代となりましたが、生徒たちは果敢に新しい知識や技術を吸収しながら、たくましく今日を生きています。このような彼らの夢や希望を実現できるよう文武両面から応援していく所存ですので、関係各位の皆様には今まで以上のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



日本大学豊山高等学校・中学校
事務長

植草 敦

学校創設 70 周年によせて

豊山高等学校・中学校が創設 70 周年を迎えたこと、心よりお祝い申し上げます。永きに亘り、変わらぬご厚誼と温かなご支援を賜りました同窓会・育友会・護国寺・近隣等の皆様に、改めて御礼申し上げます。高度成長期に日本大学の付属校となり、バブル期、ネット時代、低成長期など様々な時代を経て今日に至りました。日本大学も含め、社会が大きく揺れ動いた時期もありました。その中で、成長期の生徒を迎える男子校として、校訓である「強く 正しく 大らかに」の基に成長し、卒立った多くの生徒・卒業生を支えた歴代の関係者の方々がこの 70 年の礎です。これから歴史を積み重ねるには、物心ともに変化が求められます。毎年入学し、卒業する生徒の皆さん、そして御父母を始めとする各位の期待に応えられるよう努力を続ける所存です。

改めて関係各位のご支援とご協力に心から感謝申し上げ、本校の発展のために、ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



日本大学豊山高等学校・中学校
経理長

宇田川 理

創設 70 周年を祝して

日本大学豊山高等学校・中学校が創設 70 周年を迎られましたこと、誠におめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が拡大し、世界の政治や経済に深刻な影響を与えた 4 年前、学校生活も大きく変化しました。先生方と生徒たちが日々の変化に対応しながらこの苦難を乗り越えてきたことを垣間見るにつけ、私たちも「豊山生の力」の大きさを実感したことを覚えています。少子化等で学校の存続すら危うく呼ばれる中で、なお憧れをもって「日大豊山」と名を呼ばれる伝統を築いてこられたのは、校長先生をはじめとする歴代の教職員の皆様の深い愛情と情熱。そして豊山生のプライドを持って社会でご活躍する卒業生とご家族の思いの積み重ねだと思います。

今、親である私たちが元気に「喜寿」や「傘寿」の世代となり、生徒たちの世代が親となって創設 100 周年を祝う。そんな素敵なかみへと新たな伝統を築かれるよう心から期待しております。



日本大学豊山高等学校・中学校
育友会名誉会長

中 義之

70 周年ご挨拶

日本大学豊山高等学校・中学校の創設 70 周年を心よりお慶び申し上げます。育友会会長を拝命し身の引き締まる思いでございます。

日大豊山の生徒は、礼儀正しく、爽やかなイメージがあり、長男の中學受験の際にはまず豊山を推したものでした。中・高六年間を過ごした長男と入れ替わりに次男が入学。彼らが豊山に通う 12 年間は、私自身、子供世代に果たすべき責任を学び、考えさせられた時間でもありました。

コロナ禍の中、生涯の思い出となりえた行事が次々に中止を余儀なくされ、生徒だけでなく、先生方、保護者の誰もが胸を痛め、耐え忍んだことと思います。子供達を守ることを第一に、全身全霊を傾けて頂きましたことに改めて感謝申し上げます。

日大豊山は、多くの出会いと可能性に満ちた学び舎であると思います。「強く 正しく 大らかに」伝統校の誇りを胸に、末永くご発展なさることを御祈念申し上げます。



日本大学豊山高等学校・中学校
育友会会長

溝上 好美

★ 日本大学豊山高等学校 日本大学豊山中学校 ★

創設 70 周年によせて

日本大学豊山高等学校・中学校創設 70 周年、心からお慶び申し上げます。

付属校唯一の男子校の特徴をもち、文武両道を実践、素晴らしい発展を遂げており、同窓生としても非常に誇らしく思っております。

時代の変化と共に人々の考え方も変わってきます。学校もその変化にあった対応をせねばなりませんが、日大豊山の校訓「強く 正しく 大らかに」と「知育・德育・体育」を基盤とする教育方針は、変えないでほしいものです。学校の評価が高い低いに関係なく、有名私大・国公立大入学を最重要目標としている学校が多いようです。しかし日大豊山は昔から、伸び伸びと楽しい学校生活を送らせてきました。能力や適性を早い時期から決める必要はありません。将来のある生徒の特色を生かす教育をするのが日大豊山だと思います。

今後の発展を心より祈念しております。



日本大学豊山高等学校
同窓会会長

井上 敦雄

日本大学豊山学園 70 周年を祝す

日本大学の学祖山田顕義が眠る「護国寺」は、五代将軍徳川綱吉が仏教の信仰厚い母、桂昌院の願いにより創建寺院であり、「豊山」の名前は真言宗豊山派に由来しており、120 年程前に僧侶養成の為に創立した中学校を起源とし、戦後の荒廃激動により昭和 27 年日本大学本部直属の単独男子校として再スタートし今日に至っている。

私は昭和 42 年から 6 年間剣道部に所属したが、風紀に厳しい校風で学び、先輩、後輩の上下関係休みなしの日々であった。

衆議院議員や日本大学教授を経験し、間もなく齢 70 を迎える私にとって掛け替えのない時期であったと振り返ります。

当時、都内では数少ない温水プールやプラネタリウム等設備されていて、池袋より都電（路面電車）で通い、中台グランドでの体育祭、千葉九十九里の野栄学寮の合宿等、走馬灯のように浮かんできます。今確かな歩みを続ける豊山、松井校長をはじめ教職員の尽力に敬意を表し、少子化の時代に充実した教育方針が貫かれることに期待致します。



日本大学豊山高等学校
同窓会理事長

石田 勝之

大らかな多様性



日本大学豊山高等学校
生徒会会長

清水 裕太郎

「多様性を受容しよう」と呼ばれて久しい世の中である。多様な生活背景や個性を持つ方の権利も拡大され、様々なバックグラウンドを持つ人たちがその個性を活かし活躍できる社会が実現しようとしている。私は令和6年度高校入学式の生徒会長として行った在校生代表の挨拶の中で、「豊山は自分の個性を発揮できる場所です」と話をした。これはいたって本心であり、私のクラスでも様々な個性があふれ、個性のサラダボウルの様相を呈している。まさに多様性、まさに大らか、である。よく豊山生に、「豊山はどんな学校?」と聞くと「大らか」と答える人が多いが、これもまさに豊山における個性ではないだろうか。友達の趣味、特技、なんでも認めあって「大らか」に笑い合う。好きなことを好きと胸を張って言える。そんなあたたかい空間が日大豊山の特徴であると、私は思う。創設70周年、おめでとうございます。これからも、大らかな学校であらんことを。

70周年おめでとうございます



この度は、日本大学豊山高等学校中学校創設70周年、誠におめでとうございます。

70年という3つの元号を跨ぎ、とても長い時間を過ごしたこの学校のことを私は在校生として誇りに思っています。

今までたくさんの生徒とともに2024年まで歩んできた中で、一人ひとりにどのようなストーリーがあったのでしょうか。私がこの日大豊山で過ごしてきた3年間には数えきれないほどの思い出があります。友達と喧嘩したり成績で悩んだりと思い返せば色々な感情が湧いてきます。そんな歴史ある日大豊山の70周年の節目を中学校生徒会会長として迎えられたことをとても嬉しく思います。またこの先も数十年と日大豊山が発展しつづけるために在校生として、今この瞬間を大切に歩んでいきたいと思います。

最後にこれからの中学校生徒会会長の言葉とさせていただきます。

日本大学豊山中学校
生徒会会長

嶋田 大朗

日本大学豊山学園校歌

作詞 神保光太郎
作曲 安部 幸明



校 歌

一、朝は呼ぶ大東京の空明けそめて
われら若き桜花日本の希望
大いなる未来をめざし
われらわれらここに競う
輝く母校 輝く輝く母校

二、森は呼ぶ歴史も古き豊島ヶ丘よ
われら若き桜花日本の希望
朽つるなき真理をもとめ
われらわれらここに学ぶ
輝く母校 輝く輝く母校

三、友は呼ぶ決意は燃えて相寄る魂
われら若き桜花日本の希望
新しき世界をたづね
われらわれらここに進む
輝く母校 輝く輝く母校

旧制豊山中學校々歌

作詞 北原白秋
作曲 山田耕作

一、雲は高し、この森、 三、空は遠し、この道、
我等夙に勢ふ。 我等常に畏こむ。

三つ柏、豊山中學、 三つ柏、豊山中學、
光れ緑、この若萌、 錛へ、自主、この精神、
若きは剛し、芳し、 信は清し、尊し、
慈悲は芽ぐむ閑かに、 徳はつつむゆたかに、
閑かに、 ゆたかに、
我等、我等、學べり。 我等、我等、競へり。

豊山、豊山、 豊山、豊山、
豊山中學、 豊山中學、
我等、我等、學べり。 我等、我等、競へり。

二、禮は正し、この丘、 三、柏、豊山中學、
我等常に思へり。 そよげ微風、このかがやき
古きはふかし、新し、 志氣はあがる朗らかに、
朗らかに、 我等、我等、集へり。
我等、我等、集へり。

豊山、豊山、

豊山中學、

■日本大学豊山高等学校・中学校

校訓

強く
正しく
大らかに

教育方針

本校は日本大学の教育理念である「自主創造」の精神および「日本大学教育憲章」に定める「日本大学マインド」並びに「自主創造の3つの構成要素及びその能力」を有する生徒を育成するため、以下の教育方針を掲げる

- 一、至誠よく真理と正義を愛すること
- 一、知識技能を啓発し ことにあたって協力をおしまないこと
- 一、自主創造の精神に則り 自主性を養い責任を重んずること
- 一、勤労を尊び心身ともに健康であること
- 一、自他の人格を尊重し 礼儀正しく秩序を守ること
- 一、国際社会に活躍し 貢献できること

NIHON UNIVERSITY
BUZAN HIGH SCHOOL

校旗・校章



旧豊山中学校時代のものは三つ柏であったが、日本大学に移行することによって、その象徴である若桜になった。中央に桜花を配し、周囲に四枚の葉をあしらったこの文様は、日本大学付属校共通のもので、桜花の部分にかぶせた文字が各校によって異なる。



高等学校



中学校

■日本大学

日本大学の目的および使命

日本大学は 日本精神にもとづき
道統をたとび 憲章にしたがい
自主創造の気風をやしない
文化の進展をはかり
世界の平和と人類の福祉とに
寄与することを目的とする

日本大学は 広く知識を世界にもとめて
深遠な学術を研究し
心身ともに健全な文化人を
育成することを使命とする

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

◆日本大学マインド

日本の特質を理解し伝える力

日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。

多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。

社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

◆「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

自ら学ぶ

豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

世界の現状を理解し、説明する力

世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

自ら考える

論理的・批判的思考力

得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。

問題発見・解決力

事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

自ら道をひらく

挑戦力

あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。

コミュニケーション力

他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。

リーダーシップ・協働力

集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。

省察力

謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

日本大学 学祖 山田顕義

略伝

弘化元年（1844）長門国松本村（現山口県萩市）に、萩藩士山田七兵衛顕行の長男として生まれた。幼名は市之允、後に顕義と改め、空齋と号した。伯爵。

安政4年（1857）頃松下村塾に入門し、師・吉田松陰の薰陶を受ける。戊辰戦争では、参謀として新政府軍を率い、東北諸藩および箱館五稜郭の旧幕府軍を降した。明治4年（1871）陸軍少将に任せられ、10月、岩倉欧米視察団に理事官として随行、軍制・法律などを調査研究する。

明治6年に帰朝後、東京鎮台司令長官・司法大輔を歴任。明治10年、西南戦争が勃発し、別働旅団司令長官として九州へ出征。明治11年、元老院議官、陸軍中将に任せられる。

以後、参議兼工部卿、内務卿、司法卿を歴任し、18年内閣制度発足にともない、初代司法大臣に就任する。

明治22年には皇典講究所所長に就任し、帝国大学法科大学教授宮崎道三郎らとともに同所内に日本法律学校を創設する。

明治25年（1892）11月、山口よりの帰路、生野銀山を視察中、急逝した。享年49歳。

（写真提供：日本大学広報部広報課）



山田顕義の書



山口県萩の松下村塾



官員一覧鑑（揚州周延画、明治15年頃、左上が山田顕義）



萩・顕義園の「山田顕義先生之像」



日本大学 100 周年を記念して改修された
護国寺内の山田顕義墓所（文京区）



箱館戦争官軍上陸の地（北海道爾志郡乙部町）
顕義率いる新政府軍が五稜郭攻略のため上陸した



山田顕義に師・吉田松陰が贈った扇面



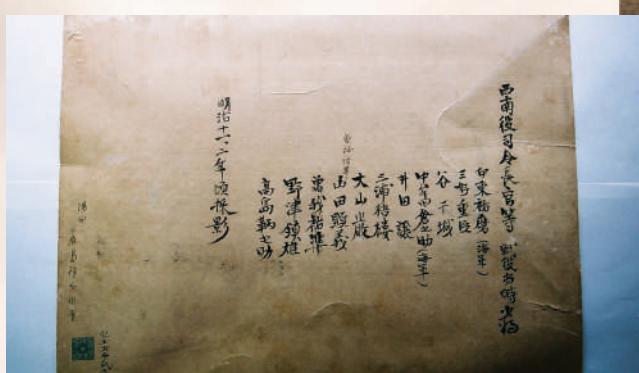
山田顕義終焉之地（兵庫県朝来市）



日本大学・國學院大學発祥記念碑（東京都千代田区）
昭和 60 年に本学と國學院大學の共同で、
両校の母体である皇典講究所跡地に建立された



西南戦争司令長官等集合写真
(写真上：左から 4 人目が山田顕義、写真左：写真の裏書き)



日本大学 歴代理事長



圓谷 弘



吳 文炳



佐藤運雄



古田重二良



高梨公之



永澤 滋



鈴木 勝



柴田勝治



瀬在良男



森田賢治



小嶋勝衛



田中英壽



加藤直人



林 真理子

日本大学 歴代学長

初代校長
金子堅太郎2代校長・初代総長
松岡康毅2代総長
平沼騏一郎3代総長
山岡萬之助4代総長
吳 文炳5代総長
永田菊四郎6代総長
鈴木 勝7代総長
高梨公之8代総長
木下茂徳9代総長
瀬在良男10代総長
瀬在幸安11代総長
小嶋勝衛12代総長
酒井健夫13代総長・学長
大塚吉兵衛14代学長
加藤直人15代学長
酒井健夫16代学長
大貫進一郎

旧制豊山中学校 / 日本大学豊山高等学校・中学校 歴代校長

旧制豊山中学校

初代校長 関 大渢 (明治36年)	2代校長 高城義海 (明治37年)	3代校長 澤田秀元 (明治38年~41年)	4代校長 小林正盛 (明治42年~45年)	5代校長 岩掘智道 (大正2年~3年)	6代校長 吉田堯昇 (大正4年~8年)	7代校長 宮崎栄雅 (大正9年)
8代校長 神林隆淨 (大正10年~13年)	9代校長 吉田堯昇 (大正14年)	10代校長 永見聖光 (大正15年~昭和2年)	11代校長 川井精春 (昭和3年~6年)	12代校長 西垣恒矩 (昭和7年~10年)	13代校長 山田為藏 (昭和11年~19年)	14代校長 那須宥豊 (昭和20年~21年)
15代校長 鶴 昌清 (昭和22年~26年) <大正3年卒>						
8代校長 神林隆淨		12代校長 西垣恒矩		13代校長 山田為藏	14代校長 那須宥豊	15代校長 鶴 昌清

日本大学豊山高等学校・中学校

					
初代校長 呉 文炳 (昭和27年11月 ~29年3月)	2代校長 大東健夫 (昭和29年4月 ~37年3月)	3代校長 中路正義 (昭和37年4月 ~39年3月)	4代校長 牛山栄治 (昭和39年4月 ~45年3月)	5代校長 原澤文彌 (昭和45年4月 ~48年5月)	6代校長 鈴木 勝 (昭和48年6月 ~48年7月)
					
7代校長 金子義夫 (昭和48年8月 ~55年3月)	8代校長 加藤 滋 (昭和55年4月 ~59年6月)	9代校長 岡村光春 (昭和59年7月 ~平成元年9月)	10代校長 夏井 満 (平成元年10月 ~10年3月)	11代校長 樋口政利 (平成10年4月 ~13年3月)	12代校長 山崎道夫 (平成13年4月 ~18年3月)
					
13代校長 大橋勝義 (平成18年4月 ~20年3月)	14代校長 中島 功 (平成20年4月 ~25年3月)	15代校長 深田大介 (平成25年4月 ~28年3月)	16代校長 松井 靖 (平成28年4月 ~現在に至る)		



日大豊山のルーツ・前身から現在へ



＜明治5年（1872）宗学林（ルーツ）設置＞

旧制豊山中学校は明治36年（1903年）に宗教法人真言宗豊山派が護国寺に設置しました。その前身は、明治5年（1872年）の教部省の設置を背景に護国寺に設けられた「宗学林」がルーツになるようです。

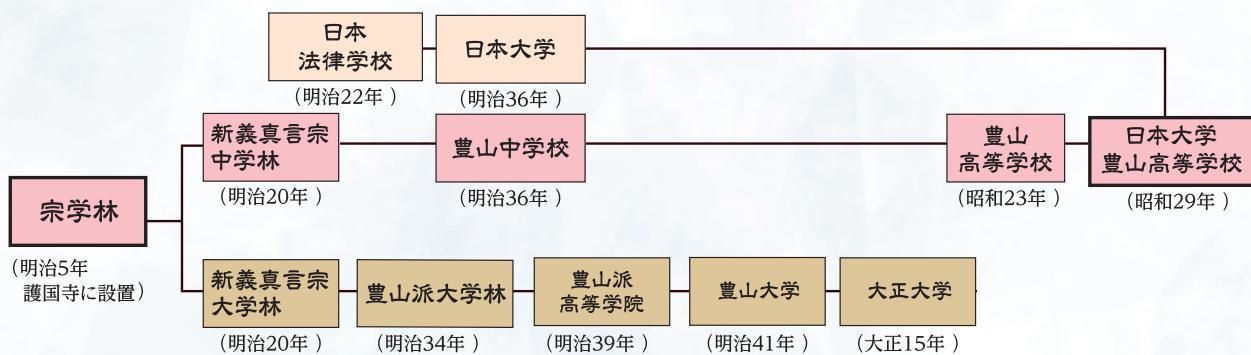
「宗学林」より明治20年「新義真言宗大学林付属中学林」が開校し、校舎・寄宿舎等の諸設備が完成しました。また、学則には生徒の制服として黒素絹と折五條が規定されており、法衣が制服でした。なお、開校式は護国寺本堂で挙行されました。

明治期には木造2階建の模範建築の校舎や、大正期には外国人の先生が在職し英語を指導されたり、昭和期は8年に鉄筋コンクリートのモダンな校舎を竣工し、42年に地下1階・地上6階・7階にプラネタリウムを設置した新校舎を竣工し、当時より中高大連携教育の推進を図っておりました。

平成28年には人感知式エスカレーターと塩素を使用しないプールで、災害時に非常用の生活用水として利用可能な温水プール（25m×10コース）を11階に設置した地下2階・地上11階建の高層新校舎（現校舎）と板橋区中台に新総合グラウンド（人工芝）をグランドオープンさせました。このように豊山は、常に時代時代の最先端を進んできました。

そして令和6年（2024年）は、日本大学豊山高等学校として70周年、旧制豊山中学校からは121年、宗学林からは実に152年を迎え、日大豊山はさらに前進していきます。

宗学林から日大豊山までの変遷と系譜



旧制豊山中学校校舎（昭和8年頃）



旧制豊山中学校
校章「三つ柏」



校旗



護國寺境内地實測圖 展開図 〈左下に豊山大学・豊山中学の校舎がみられる〉（護國寺所蔵）

宗学林・真義真言宗中学林及び豊山中学校創立当初は、宗派子弟の教育機関であり、在家の子弟は入学できず、入学希望者は、一担菩提寺に弟子入りしてから入学資格を得たそうです。大正11年の「護国寺境内図」には、豊山大学、豊山中学の校舎だけでなく、豊山大学寄宿舎（全国各地より入学した子弟の施設）、尋常学院寄宿舎も記載されています。

略年表<宗学林～旧制豊山中学校>

明治 5 年 (1872)

宗学林（旧制豊山中学校の前身）設立（護国寺に設置）

明治 20 年 (1887)

宗学林が新義真言宗中学林（後の旧制豊山中学）及び新義真言宗大学林（後の豊山大学から大正大学）に改組。校舎・寄宿舎の諸設備完成、護国寺本堂にて開校式挙行

明治 22 年 (1889)

日本法律学校創立（日本大学の前身）

明治 34 年 (1901)

豊山派大学林設立



旧制豊山中学校校舎（木造2階建）

明治 36 年 (1903)

真言宗豊山派宗教法人豊山中学校創立

校長に閑 大渓氏就任（初代）

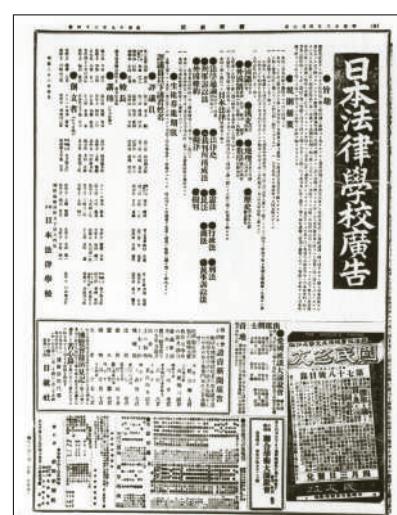
日本法律学校が日本大学と改称

明治 37 年 (1904)

校舎新築（木造 2 階建 117 坪・

付属平家建 64 坪）

校長に高城義海氏就任



日本法律学校広告

明治 38 年 (1905)

第 1 回運動会・第 1 回修学旅行・

第 1 回開校式挙行

校友会雑誌第 1 号発行

校長に澤田秀元氏就任

明治 39 年 (1906)

豊山派大学林が豊山派高等学院と改称



日本大学高等師範部第 1 回卒業生（明治 39 年）

明治 41 年 (1908)

豊山大学開校（豊山派高等学院が

豊山大学に改組）

明治 42 年 (1909)

校長に小林正盛氏就任



日本大学徽章
<>データー提供：
日本大学広報部広報課

大正 2 年 (1913)	校長に岩掘智道氏就任
大正 4 年 (1915)	校旗制定 校長に吉田堯昇氏就任
大正 8 年 (1919)	校舎増築
大正 9 年 (1920)	校長に宮崎栄雅氏就任
大正 10 年 (1921)	校長に神林隆淨氏就任 「本校百年の大計」を掲げた
大正 12 年 (1923)	豊山中等予備学校（夜間中学）開設 雨天体操場（体育館）兼講堂（169 坪）・ 2 階建道場棟（1 階道場・2 階 4 教室）新築
大正 14 年 (1925)	校長に吉田堯昇氏就任 外国人の先生が教鞭を執っていた
大正 15 年 (1926)	校長に永見聖光氏就任 豊山大学・天台宗大学・宗教大学が 合併して大正大学設立
昭和 2 年 (1927)	豊山中等予備学校（夜間中学）廃止
昭和 3 年 (1928)	校長に川井精春氏就任
昭和 6 年 (1931)	12 月 21 日 火災により校舎の大半、 本館約 370 坪・図書・什器一切を焼失
昭和 7 年 (1932)	校長に西垣恒矩氏就任

不老門建立前の大正時代の護国寺にて
(不老門は昭和 13 年建立)

大正 14 年 3 月卒業記念アルバム



ウィリアム・ハリス先生



相撲部



応援団

略年表<旧制豊山中学校～日本大学豊山高等学校・中学校>

昭和 8 年 (1933)

新校舎落成 (鉄筋コンクリート 2 階建)

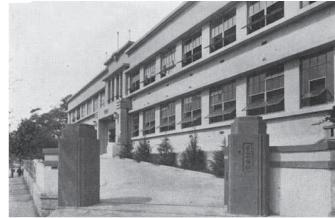
校友会雑誌第 43 号「校舎落成記念号」発行



昭和 9 年 (1934)

新校歌制定 (三つ拍)

豊中後援会 (当時の同窓会) 発足



校友会雑誌 43 号

昭和 11 年 (1936)

校長に山田為蔵氏就任

新校舎 (鉄筋コンクリート 2 階建)

昭和 16 年 (1941)

豊山第二中学校 (夜間 3 年制) 発足

<豊山第二中学校 看板と夜間の整列>
<>データー提供：日本大学広報部広報課

昭和 20 年 (1945)

校長に那須宥豊氏就任

昭和 21 年 (1946)

旧制度による最終入学式

(この入学生は後に
併設中学生になる)

昭和 22 年 (1947)

校長に鶴 昌清氏就任 (大正 3 年豊山中学校卒業)

学制改革により旧制最終回の卒業式

(豊山中学・豊山第二中学)

新制中学校第 1 回卒業式

豊山学報に豊中後援会が掲載
(豊中後援会(同窓会)発足の寄付金申込
者の氏名も掲載された)

昭和 23 年 (1948)

新制高等学校発足・入学式

(旧制豊山中学三年修了者・豊山第二中学一年
修了者を一年に、他は相当学年に編入)

併設中学校第 2 回卒業式

新制高等学校第 1 回卒業式



全日制に女子生徒が入学した (割烹部)

昭和 25 年 (1950)

全日制に女子生徒を入れる

昭和 27 年 (1952)

学校法人日本大学豊山学園として

日本大学の傘下に移行

初代校長に吳 文炳氏就任

昭和 28 年 (1953)

全日制は女子生徒募集停止

昭和 29 年 (1954)

校長に大東健夫氏就任

全日制女子は最終卒業

日本大学豊山高等学校・中学校として、日本大学の正付属校の認可を得る

昭和 34 年 (1959)

入学式を日大講堂にて行う

(昭和 34～38 年)

新校歌制定 (現校歌)

昭和 35 年 (1960)

2 号館校舎新築竣工

(地下 1 階・地上 4 階建)

卒業式を講談社ホールにて行う

(昭和 35～38 年)

ローマオリンピック競泳にて石井 宏氏が銀メダル獲得



昭和 36 年 3号館新築竣工

昭和 36 年 (1961)

3 号館校舎新築竣工

(地下 1 階・地上 4 階建)

水泳部インターハイ初優勝



日本高等学校選手権水上競技大会初優勝 (昭和 36 年)

昭和 37 年 (1962)

校長に中路正義氏就任

昭和 39 年 (1964)

校長に牛山栄治氏就任

4 号館校舎新築竣工

(体育館兼講堂・屋内温水プール等)



野栄学寮 (千葉県)

昭和 40 年 (1965)

野栄学寮新築竣工、

夏季野栄行事はじまる

スクールバス購入



野栄学寮

昭和 41 年 (1966)

野栄学寮にプール完成

略年表<日本大学豊山高等学校・中学校>

昭和 42 年 (1967)

1号館校舎新築竣工

(地下 1 階、地上 6 階、7 階にプラネタリウム設置)



プラネタリウム室



球体がプラネタリウム

昭和 44 年 (1969)

定時制生徒募集を停止

昭和 45 年 (1970)

校長に原澤文彌氏就任

育友会新聞「ぶざん」第 1 号発刊

定時制は最後の卒業生 (51 名) を送って廃止



昭和 46 年 (1971)

同窓会「第 1 回設立総会」開催

(同窓会主催・10月 31 日 母校体育館)



同窓会「第 1 回設立総会」

育友会新聞「ぶざん」第 1 号発行

昭和 47 年 (1972)

「軌跡」日本大学移行 20 周年記念誌発行

昭和 48 年 (1973)

校長に鈴木 勝氏就任 (6 月)

校長に金子義夫氏就任 (8 月)

昭和 49 年 (1974)

同窓会名簿 初版第 1 号発行 (同窓会発行)

同窓会名簿



「同窓会名簿第 1 号」

昭和 52 年 (1977)

5号館校舎新築竣工



新築された 5 号館 (写真左端)

昭和 55 年 (1980)

校長に加藤 滋氏就任

昭和 59 年 (1984)

校長に岡村光春氏就任

平成元年 (1989)

校長に夏井 満氏就任
日本大学創立 100 周年

<日本大学創立 100 周年記念式典>

平成 4 年 (1992)

コンピューター教室竣工

平成 5 年 (1993)

同窓会ニュース「音羽の杜」第 1 号発行
(同窓会発行)

平成 6 年 (1994)

日大豊山高校創設 40 周年記念式典挙行
(10 月天風会館)・40 周年記念誌発行

40 周年記念式典 (天風会館)



創設 40 周年記念誌



「音羽の杜」第 1 号発行

平成 8 年 (1996)

野榮学寮閉寮



野榮学寮

平成 10 年 (1998)

校長に樋口政利氏就任

平成 12 年 (2000)

校訓「強く 正しく 大らかに」制定

野球部甲子園初出場

強く
正しく
大らかに

当校校訓



野球部甲子園初出場 (ベスト 16)



40 周年記念コンサート (東京芸術劇場)

創設 70 周年記念誌

略年表<日本大学豊山高等学校・中学校>

平成 13 年 (2001) 校長に山崎道夫氏就任

平成 15 年 (2003) 育友会新聞「ぶざん」第 100 号記念特集号

平成 16 年 (2004) 日大豊山創設 50 周年記念式典挙行
(11 月椿山荘)

創設 50 周年記念誌発行
体育館にて護国寺所蔵「釈迦大涅槃図」
御開帳 (2 月 14 日～16 日)



育友会新聞「ぶざん」第 100 号記念発行



創設 50 周年記念誌



創設 50 周年記念式典



「釈迦大涅槃図」御開帳
(TV 取材を受けニュースで放送される)

平成 18 年 (2006) 校長に大橋勝義氏就任



ダライ・ラマ法王が来校

平成 19 年 (2007) ダライ・ラマ法王来校記念講演会
(11 月 22 日 体育館)

平成 20 年 (2008) 校長に中島 功氏就任

北京オリンピック競泳にて佐藤久佳氏が 400m
メドレーリレーで銅メダル、柴田隆一氏が 200m
バタフライで準決勝進出



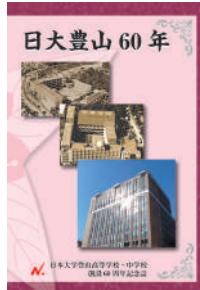
左：佐藤久佳氏・右：柴田隆一氏

平成 25 年 (2013) 校長に深田大介氏就任

平成 27 年 (2015) 日大豊山創設 60 周年記念式典・
新校舎竣工記念式典挙行
創設 60 周年記念誌発行



創設 60 周年記念式典



創設 60 周年記念誌

平成 28 年 (2016)



松井 靖校長

校長に松井 靖氏就任
校庭完成・新校舎グランドオープン
中台総合グラウンド グランドオープン

日大豊山同窓生で初めて
の校長就任（昭和 53 年
卒業）。
日本大学付属校で唯一の
男子校として、「男子力の
育成」・「男子力日本一」
を掲げる。



新総合グラウンド（人工芝）

完成した新（現）校舎
(平成 27 年 3 月 7 日記念式典挙行)

平成 29 年 (2017)

水泳部 高校・中学同時全国優勝



スクールバス

平成 30 年 (2018)

水泳部 高校・中学全国優勝（同時 V2）



高校水泳部



中学水泳部



コロナ禍対応のオンライン授業

令和 2 年 (2020)

3 月 2 日～5 月 31 日 コロナ禍により臨時休校

5 月 11 日 オンライン授業配信開始

6 月 1 日 分散登校開始

10 月 31 日 豊山祭をオンライン文化祭として配信



同窓会創設 50 周年記念誌

令和 3 年 (2021)

在校生で初のオリンピック出場（東京オリンピック 2020）

水泳部・柳本幸之介さん（当時高 3）



同窓会創設 50 周年記念第 50 回全卒業生の集い

令和 4 年 (2022)

同窓会創設 50 周年記念

第 50 回全卒業生の集い開催（同窓会主催）

同窓会創設 50 周年記念誌発行（同窓会発行）

令和 5 年 (2023)

水泳部 インターハイ優勝（V6）通算 13 回目



水泳部インターハイ V6

令和 6 年 (2024)

パリオリンピック競泳にて柳本幸之介氏が
4 × 200m リレーで 7 位入賞、谷口卓氏が
混合 400m メドレーリレーで 8 位入賞
日大豊山創設 70 周年記念誌発行

旧制豊山中学校から日本大学豊山高等学校へ 校舎の移り変わり



明治・大正・昭和初期までの校舎（木造2階建）は、明治期の模範建築でした。



昭和8年、落成新校舎（鉄筋コンクリート2階建）は、昭和初期では大変モダンな校舎でした。



昭和29年正面校舎内と廊下



昭和31年1号館3階増築
昭和35年2号館新築竣工
生徒数増加により1号館（3階部分）増築及び2号館（地下1階・地上4階建）新築



昭和36年3号館新築竣工
2号館の奥（音羽市場側）に3号館（地下1階・地上4階建）新築



昭和46年中台総合グラウンドと豊山女子高等学校
昭和41年中台総合グラウンドにて初の体育祭実施・昭和40年豊山女子高等学校開校



昭和 39 年 4号館（体育館兼講堂・屋内温水プール）新築竣工
昭和 42 年 1号館（地下 1階・地上 6階、7 階にプラネタリウム）新築竣工。昭和 45 年、東京オリンピックの練習会場として体育館及びプールが使用された。また、プラネタリウムがある学校として全国でも最先端の校舎でした。



昭和 52 年 5号館新築竣工。サンシャイン 60 展望台より見えるように4号館に大きく校名をペイント



平成 15 年 校舎全景と護国寺と学校周辺



学校名の看板が設置された 1号館



平成 26 年 上棟式



新校舎建設のための仮設校舎（護国寺側 6号館）



平成 27 年新校舎竣工
平成 28 年新校舎グランドオープン



平成 25 年 1月 17 日新校舎地鎮祭



制服の移り変わり



宗学林・中学林時代（明治 20 年頃）



黒素絹と折五條の法衣のイメージイラスト

旧制豊山中学時代

詰襟り 5 つボタン → 詰襟り蛇腹 → 詰襟り 5 つボタン



(大正 15 年頃)
詰襟り 5 つボタンの制服



(昭和 15 年頃)
詰襟りにも蛇腹が廻されたボタンのないサイドベンツの
蛇腹制服



(昭和 15 年頃)
詰襟り蛇腹制服とコートと制帽



(昭和 25 年頃)
5 つボタンと昭和 25~29 年の共学時の女
子生徒（全日制）の制服

日本大学豊山高等学校・中学校（昭和～平成）

詰襟り5つボタン、中学生は袖に白ライン

(昭和35年頃)
5つボタンと制帽

(昭和60年頃体育着)



(昭和63年頃)



(平成5年頃体育着)



(平成27年頃中学生)



(平成27年頃高校生)

70周年（令和6年）制服・体育着

詰襟り5つボタン、中学生は袖に白ライン



高校制服



中学校制服



体育着

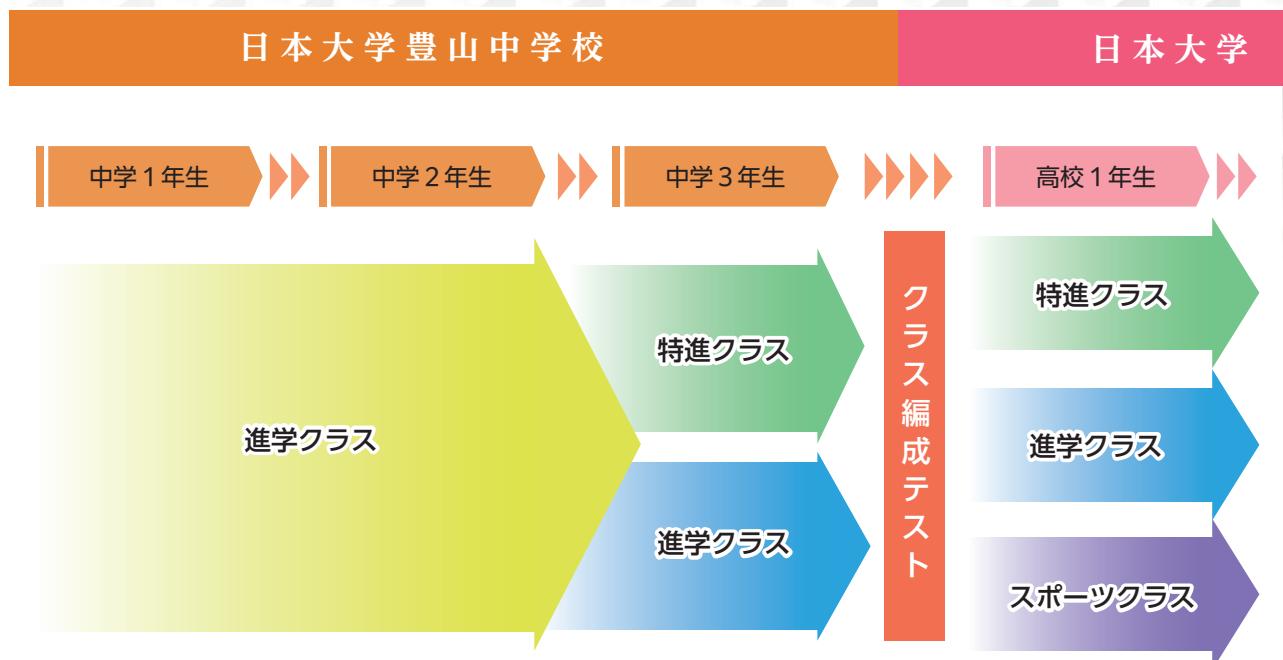
グリーン・ブルー・ピンクの学年カラーに
色分けされた体育着（写真はグリーン学年）

現在の日本大学豊山高等学校・中学校



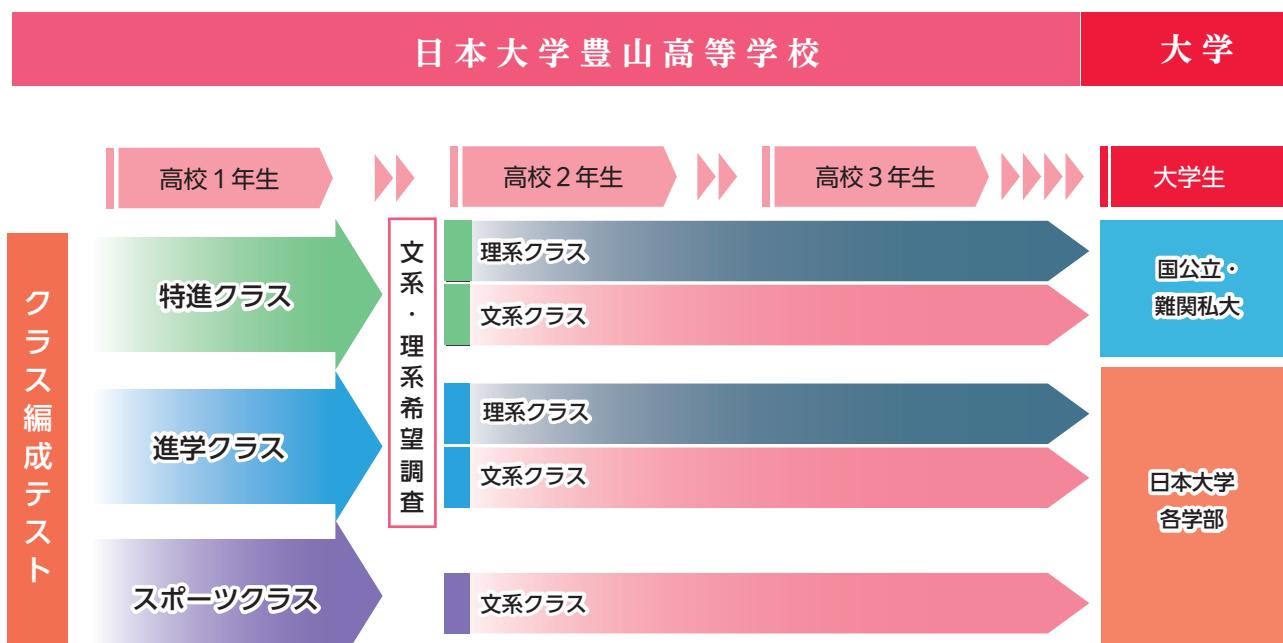
中高大の連携教育

豊山中学校から大学までの主な流れ



高校入学生の高大連携教育

豊山高等学校から大学までの主な流れ



本校は法学部、経済学部などと連携教育の協定を結んでいます。連携教育とは、大学の講義や雰囲気を高校在学中に体験できるシステムのことです。オープンキャンパスで実施される高校生向けの授業とは異なり、本物の大学の講義を受講することができます。



コース紹介

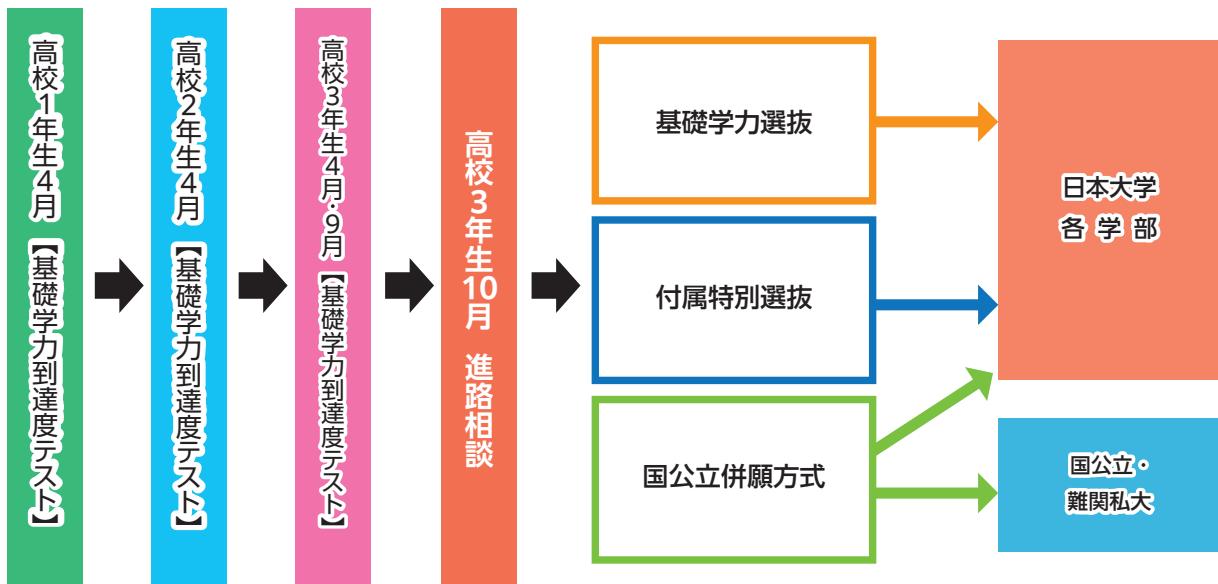
特進クラス	進学クラス	スポーツクラス
<p>＜難関大学合格を目指す＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他大学進学を目指し、授業内容及び補助教材で差別化を図る。 ・高校3年次は、4時間目までは必修科目。午後は共通テスト対策用の自由選択講座を用意。 ・先取り授業により受験対策の時間を確保。 	<p>＜高い日大進学率＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランスの取れたカリキュラムにより、基礎学力を定着させる。 ・学習、部活動、委員会等の生徒会活動を両立させ、文武両道を通して学力と人間力を育成する。 ・基礎学力到達度テストで成果をあげるための授業を展開。 	<p>＜文武両道でスキルを磨く＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技だけでなく、進学コースと同様に、学業との両立を軸としたカリキュラムで基礎学力を定着させる。 ・基礎学力到達度テストで成果をあげるための授業を展開。



現在の日本大学豊山高等学校・中学校

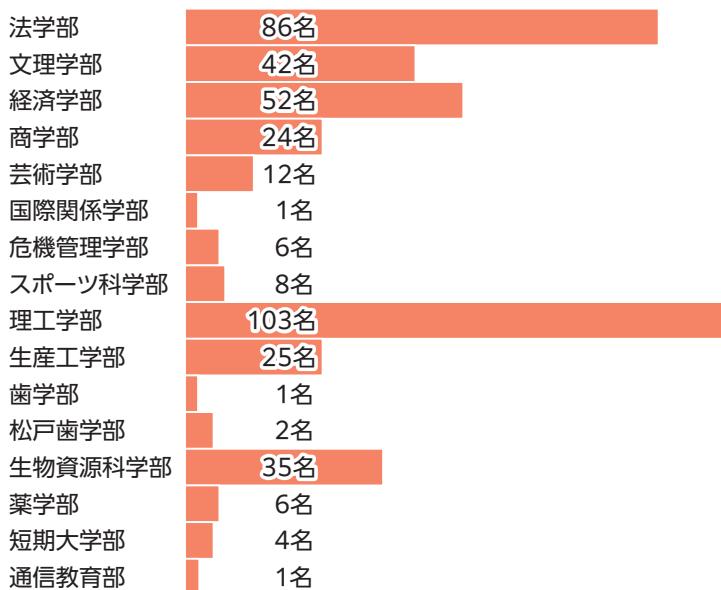
卒業生の進路

付属校ならではの多様な推薦方式



<進学・合格状況（令和5年度卒業生）>

日本大学 進学



他大学 合格

・国公立	
北海道大学	1名
東京学芸大学	1名
東京海洋大学	1名
鳥取大学	1名
防衛大学校	2名
・私立	
早稲田大学	1名
上智大学	6名
東京理科大学	18名
明治大学	9名
青山学院大学	2名
立教大学	3名
中央大学	9名
法政大学	8名
学習院大学	5名
その他の大学	120名

<進学実績> — 現役大学進学率 **95.3%** —

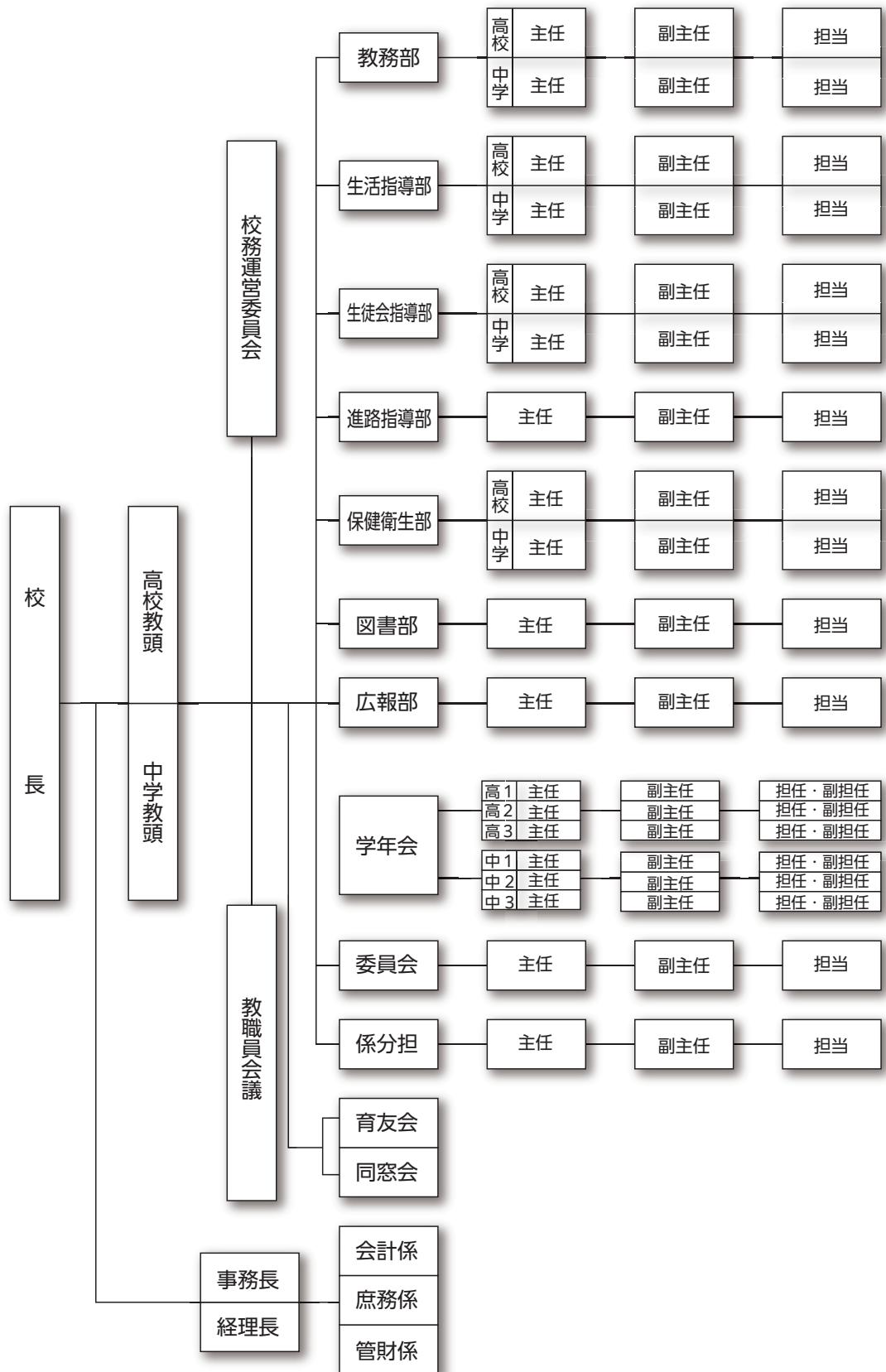
日本大学 408名 74.3%

他大学
115名
20.9%

その他 専門学校
予備校等 26名

校務組織

【令和6年度】



現在の日本大学豊山高等学校・中学校

日大豊山の1年間



春
夏





中学修学旅行



百人一首かるた大会



中学校内体育大会

秋

冬



中学校内英語スピーチコンテスト



高校修学旅行
(スポーツクラス)



D



卒業式



スキー教室

クラブ・生徒会活動等の主な活躍

— 2014 ~ 2024 (8月まで) —

クラブ紹介
(本校公式サイト) へ

育友会機関誌「ぶざん」より転載

2014 (平成 26 年度)

■高等学校

- <水泳部>
- ・ジャパンオープン
- ・ジュニアapanパシフィック大会
- ・インターハイ
- ・全国 JOC ジュニアオリンピック夏季水泳競技大会
- ・国民体育大会

<陸上競技部>

- ・インターハイ
- ・関東高等学校陸上競技大会
- ・関東高等学校選抜新人陸上選手権大会

<スキー部>

- ・関東高等学校スキー大会

■中学校

- <水泳部>
- ・全国中学校体育大会

<卓球部>

- ・関東高等学校卓球大会
- ・インターハイ
- ・国民体育大会
- ・東京都高等学校新人大会 団体優勝

<書道部>

- ・全国高野山競書大会 高野山総長賞

<電子計算機部>

- ・中学高校交流ロボットコンテスト 優勝

<自転車部>

- ・関東高等学校自転車競技大会
- ・インターハイ
- ・全日本選手権自転車競技大会

<電子計算機部>

- ・中学高校交流ロボットコンテスト 優勝 V2

■中学校

<水泳部>

- ・日本選手権水泳競技大会
- ・全国中学校体育大会

2015 (平成 27 年度)

■高等学校

- <水泳部>
- ・日本選手権水泳競技大会
- ・ジャパンオープン 2015
- ・インターハイ
- ・FINA スイミングワールドカップ 2015
- ・アジアエージングループ選手権大会
- ・国民体育大会
- ・全国 JOC ジュニアオリンピックカッブ夏季水泳競技大会

<陸上競技部>

- ・関東高等学校陸上競技大会

<スキー部>

- ・関東高等学校スキー大会

<バレーボール部>

- ・関東高等学校男子バレーボール大会

<野球部>

- ・全国高校野球選手権東京大会 準優勝

<書道部>

- ・第 50 回記念全国高野山競書大会

<卓球部>

- ・関東高等学校卓球大会
- ・インターハイ

<自転車部>

- ・関東高等学校自転車競技大会
- ・インターハイ

2016 (平成 28 年度)

■高等学校

- <水泳部>
 - ・全国 JOC ジュニアオリンピック カップ春季水泳競技大会
 - ・日本選手権水泳競技大会
 - ・リオ五輪代表選手選考会
 - ・ジャパンオープン 2016
 - ・2016 ジュニアパンパシフィック大会
 - ・全国 JOC ジュニアオリンピック カップ夏季水泳競技大会
 - ・インターハイ
 - ・国民体育大会

<卓球部>

- ・関東高等学校卓球大会
- ・インターハイ
- ・全日本選手権卓球大会

<自転車部>

- ・インターハイ
- ・東京都選手権トラックレース大会
ジュニア 優勝

<バスケットボール部>

- ・関東高等学校男子バスケットボール大会

<バレー部>

- ・関東高等学校男子バレー部大会

<スキー部>

- ・関東高等学校スキー大会

<吹奏楽部>

- ・東京都高等学校吹奏楽コンクール
(中・高合同) 金賞
- ・2016TAMA アンサンブルフェスタ
東京都知事賞
- ・東京都高等学校アンサンブルコンテスト
金賞

<交通安全委員会>

- ・警視総監感謝状授受

■中学校

<水泳部>

- ・日本選手権水泳競技大会
- ・リオ五輪代表選手選考会
- ・ジャパンオープン 2016
- ・全国中学校体育大会 準優勝
- ・全国 JOC ジュニアオリンピック カップ夏季水泳競技大会

<卓球部>

- ・全国中学校体育大会

<体操部>

- ・東京都中学校新人大会 団体 2 位

<書道部>

- ・全国高野山競書大会 高野山総長賞 /
大会委員長賞

2017 (平成 29 年度)

■高等学校

- <水泳部>
 - ・全国 JOC ジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会
 - ・日本選手権水泳競技大会
 - ・インターハイ優勝
 - ・国民体育大会
 - ・全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会
 - ・ワールドカップ 2017 東京大会

<卓球部>

- ・インターハイ
- ・東京都高等学校新人大会 団体優勝

<自転車部>

- ・インターハイ
- ・全日本自転車競技選手権ロード・レース

<体操部>

- ・東京都高等学校新人大会 団体 1 位
- ・東京都体操競技種目別選手権大会
1 位

<バスケットボール部>

- ・関東高等学校男子バスケットボール大会

<スキー部>

- ・関東高等学校スキー大会

■中学校

<水泳部>

- ・全国 JOC ジュニアオリンピック カップ夏季水泳競技大会
- ・全国中学校体育大会 優勝

<卓球部>

- ・全国中学校体育大会 団体 3 位

<書道部>

- ・全国高野山競書大会 高野山総長賞 / 大会委員長賞

2018 (平成 30 年度)

■高等学校

- <水泳部>
- ・日本選手権水泳競技大会
 - ・ジャパンオープン
 - ・インターハイ優勝 V2
 - ・国民体育大会
 - ・ユースオリンピック競技大会
 - ・全国 JOC ジュニアオリンピック
カップ夏季水泳競技大会
 - ・世界選手権代表選手選考会

<体操部>

- ・東京都体操競技種目別選手権大会
1位

<陸上競技部>

- ・関東高等学校陸上競技選手権大会
- ・全国高等学校選抜陸上競技大会
- ・関東高等学校選抜陸上競技大会

<書道部>

- ・全国高野山競書大会 高野山総長賞 /
毎日新聞社賞

<英語部>

- ・日本大学付属高校英語スピーチコンテ
スト 入賞

<卓球部>

- ・全国高等学校選抜卓球大会
- ・関東高等学校卓球大会 団体優勝
- ・インターハイ

<バスケットボール部>

- ・東京都中学校総合体育大会 3位
- ・関東中学校バスケットボール大会
3位

<バレー部>

- ・東京都私立中学校大会 3位

<野球部>

- ・東京都少年新人（中学）軟式野球大会
優勝

<自転車部>

- ・関東高等学校自転車競技大会
- ・全日本選手権個人タイムトライアル
ロード・レース大会
- ・全日本自転車競技選手権大会ロード・
レース大会
- ・インターハイ
- ・関東高等学校新人自転車競技大会

<水泳部>

- ・全国中学校体育大会 優勝 V2

<スキーパー部>

- ・全国中学校スキーパー大会

<吹奏楽部>

- ・東京都中学校アンサンブルコンテスト
金賞

<書道部>

- ・全国高野山競書大会 書道協会賞

<スキーパー部>

- ・関東高等学校スキーパー大会

■中学校

<水泳部>

- ・全国中学校体育大会 優勝 V3
- ・関東中学校水泳競技大会

<体操部>

- ・東京都中学校体操競技新人大会
団体優勝

<スキーパー部>

- ・全国中学校スキーパー大会

<書道部>

- ・全国高野山競書大会
高野山書道協会賞

<卓球部>

- ・インターハイ
- ・関東新人大会準優勝

<陸上競技部>

- ・全国高等学校選抜陸上競技大会
- ・関東高等学校選抜陸上競技選手権大会

<スキーパー部>

- ・関東高等学校スキーパー大会

<書道部>

- ・全国高野山競書大会 高野山管長賞 /
高野山総長賞 / 審査委員長賞

<自転車部>

- ・関東高等学校自転車競技大会
- ・インターハイ
- ・関東高等学校新人自転車競技大会

2020 (令和2年度)

※コロナ禍によりインターハイ及びほとんどの公式戦が中止となりました。

■高等学校

<水泳部>

- ・日本選手権水泳競技大会

<サッカー部>

- ・全国高校サッカー選手権
東京都予選 準優勝

<バスケットボール部>

- ・Tokyo Thanks Match2020 第3位
- ・Softbank ウインターカップ2020

■中学校

<体操部>

- ・東京都中学校体操競技新人大会
団体優勝

<書道部>

- ・全国競書大会 金剛峯寺賞 /
団体特別賞

2021 (令和3年度)

■高等学校

<水泳部>

- ・日本選手権水泳競技大会
- ・インターハイ優勝V4
- ・全国JOCジュニアオリンピックカップ
夏季水泳競技大会
- ・東京オリンピック2020競技大会

<卓球部>

- ・関東高等学校新人卓球大会

<バスケットボール部>

- ・関東高等学校男子バスケットボール大会

<陸上競技部>

- ・関東高等学校陸上競技大会

<体操部>

- ・東京都体操競技種目別選手権大会
1位

<ソフトテニス部>

- ・関東高等学校ソフトテニス選手権
- ・東京都新人戦 個人戦3位、団体戦3位

<スキーパー>

- ・インターハイ

<書道部>

- ・全国高野山競書大会 高野山総長賞 /
審査委員長賞 / 南山賞

<体操部>

- ・東京都中学校体操競技選手権大会
団体優勝
- ・関東中学校体操競技大会

<卓球部>

- ・関東中学校卓球大会

<放送部>

- ・東京都中学校放送コンテスト 1位
- ・NHK杯全国中学校放送コンテスト
入賞

<書道部>

- ・全国高野山競書大会 協力賞
- ・全国競書大会 金剛峯寺賞

2022 (令和4年度)

■高等学校

<水泳部>

- ・インターハイ優勝V5

<卓球部>

- ・関東高等学校新人卓球大会 3位
- ・全日本卓球選手権大会ジュニアの部

<自転車部>

- ・インターハイ

<バスケットボール部>

- ・関東高等学校男子バスケットボール大会

<陸上競技部>

- ・JOCジュニアオリンピックカップ
- ・関東高等学校陸上競技大会
- ・関東高等学校選抜新人陸上競技選手権
大会

<スキーパー>

- ・関東高等学校スキーダービー

<ソフトテニス部>

- ・関東私学選抜ソフトテニス大会
団体3位

■中学校

<水泳部>

- ・全国中学校体育大会

<体操部>

- ・東京都中学校体操競技選手権大会
団体3位
- ・関東中学校体操競技大会
- ・東京都中学校体操競技新人大会
団体2位

2023 (令和5年度)

■高等学校

<水泳部>

- ・インターハイ優勝 V6
- ・関東高等学校選手権大会 V7
- ・東京都高等学校選手権大会 V55
- ・日本大学体育大会 V63

<卓球部>

- ・関東高等学校卓球大会

<自転車部>

- ・関東高等学校自転車競技大会
- ・2023 全日本自転車競技選手権大会

<陸上競技部>

- ・インターハイ
- ・関東高等学校陸上競技大会

<体操部>

- ・東京都体操競技種目別選手権大会
1位

<剣道部>

- ・東京都高等学校春季大会 団体3位
- ・関東高等学校剣道大会

<ソフトテニス部>

- ・関東高等学校選手権
- ・インターハイ

<スキー部>

- ・関東高等学校スキー大会

<書道部>

- ・全国高野山競書大会 高野山総長賞 / 奨励賞
- ・全国競書大会 毎日新聞社賞 / 団体特別賞

<電子計算機部>

- ・中学高校交流ロボットコンテスト 優勝

<放送部>

- ・NHK 杯全国高校放送コンテスト

■中学校

<水泳部>

- ・全国中学校体育大会

<体操部>

- ・関東中学校体操競技大会

<放送部>

- ・東京都中学校放送コンテスト 準優勝
- ・NHK 杯全国中学校放送コンテスト

2024 (令和6年度8月まで)

■高等学校

<水泳部>

- ・インターハイ 総合3位
- ・関東高等学校選手権大会 V8
- ・東京都高等学校選手権大会 V56
- ・日本大学体育大会 V64

<サッカー部>

- ・関東高校サッカー東京予選 準優勝
- ・全国高校サッカーインターハイ
東京予選 3位

<バスケットボール部>

- ・関東高等学校男子バスケットボール大会

<体操部>

- ・関東高等学校体操競技大会

<自転車部>

- ・全日本自転車競技選手権大会 トラック
レース
- ・関東高等学校自転車競技大会

<剣道部>

- ・東京都高等学校秋季剣道大会ベスト8

<陸上競技部>

- ・関東高等学校陸上競技大会

<野球部>

- ・春季東京都高等学校野球大会 ベスト8
- ・全国高等学校野球選手権大会
東京大会 ベスト8

<卓球部>

- ・関東高等学校卓球大会東京都予選
団体6位
- ・インターハイ東京都予選
団体ベスト8

<書道部>

- ・全国高野山競書大会 每日新聞社賞

<放送部>

- ・NHK 杯全国高校放送コンテスト都大会
(創作テレビ部門) 3位

■中学校

<水泳部>

- ・全国中学校体育大会

<体操部>

- ・関東中学校体操競技大会
団体総合11位

<書道部>

- ・全国高野山競書大会
高野山総長賞

<放送部>

- ・東京都中学校放送コンテスト
決勝進出

編集後記

創設 70 周年にあたり、今回、記念事業として記念誌の発刊ならびに記念サイトを公開いたしました。

本記念誌は、前回の 60 周年記念誌発刊以降、今日に至るまでの教育課程や年間行事、卒業後の進路状況や部活動の変化をコンセプトにまとめたものです。

本誌制作にあたっては、特に同窓会の役員でもあるファルコンプリント社長の芦澤様から、本校の歴史に関する膨大なデータをご提供いただきました。深く感謝申し上げます。

またご多忙の中、ご寄稿いただきました皆さま、編纂にご協力いただいた全ての皆さまに感謝申し上げます。誠に有難うございました。

創設 70 周年記念事業ワーキング・グループ

松井 靖 梅田 高司 原田 学
宇田川 理 田中 正勝 篠原 五紀



輝く母校七十年

日本大学豊山高等学校・中学校
創設 70 周年記念誌

令和 6 年 10 月 5 日発行

発行 日本大学豊山高等学校・中学校
校長 松井 靖
東京都文京区大塚 5-40-10

編集 創設 70 周年記念誌編集委員会

印刷製本 株式会社 ファルコンプリント
東京都荒川区南千住 6-24-8

無断転載・複写を禁じます

70

日本大学豊山
高等学校・中学校
創設70周年

